



# 住北通信

第15号 発行日 R2.10.8  
発行者 校長 松下 佳司  
大東市立住道北小学校  
TEL 872-7788 FAX 872-7789

## 校内研究会

～学び合い高め合う同僚性～

本校では、「**学び合い学び続ける学校**」をめざす学校像の一つとして掲げております。教員同士が日々の授業づくりについて語り合う学校風土の下、すべての子どもの学びを支え、学ぶ力を引き出す学習指導が展開できるよう、**授業力**の向上に努めなければならないと考えております。

その骨格となる取り組みが、**校内研究**であります。今年度は、実施計画を縮減し、取り組んでおります。**研究テーマ**は「**自ら学び、共に高め合い、学びを深める子をめざして**」とし、昨年度に引き続き、**国語科**と**体育科**の教科研究に取り組んでおります。

## 国語科研究

校内研究会の第1回目は、国語科の教科研究で**5年1組**の小西 正文先生が授業を公開しました。

授業で扱った教材は、令和2年度版教科書に新しく掲載された「**たずねびと**」で、戦争を題材とした物語文です。「ちいちゃんのかげおくり」（3年生）や「一つの花」（4年生）と違い、戦後、何十年も経過した今を生きる主人公の変容をもとに主題について考えを深めることがねらいです。単元名は、「物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう」とし、子どもの問いをもとに単元計画が練られていました。



本時では「登場人物であるおばあさんの行動のなぞにせまろう」をめあてに6つの問いに対する自分なりの解を言語化し、ワークシートに書いて交流するという流れでした。

物語全体を俯瞰して読み進める中で、子ども自身が問いを持ち、主人公の感情曲線を描いたり、物語のクライマックスを確定したりしながら、その問いの「なぜ」を考えるという展開で、主体性を引き出す授業のあり方として、とても参考となる提案授業でした。



コロナ禍で授業を公開すること自体、大変な中、自ら問いを持ち、思考を活性化させる力をつけるために、一つ一つの問いと丁寧に向き合い、また、次の問いの解決へと自ら進もうとする学びの姿が素敵でした。

この教材と向き合ってきた5年生の子どもたちは、6年生になれば主人公と同様に広島に行きます。等身大の主人公が見て、聞いて、気づいたことを今度は実際に自分たちが体験するというシナリオは、国語科と総合的な学習（平和学習）をつなぎ、学びを深める取組みになると考えています。



## 修学旅行 広島へ！6年生

10月2日（金）・3日（土）の2日間、6年生が、広島への修学旅行に行ってきました。



天候にも恵まれ、校外学習の集大成として、貴重な体験と気づきを得ることができました。この修学旅行で目的としていたことは、戦争当時の様子を学習し、戦争や平和について学びを深めることと、集団生活を通して、自分たちで考えて行動するとともに、友だち同士で助け合える仲間づくりをすることでした。

一つ目の**平和学習**については、**折り鶴セレモニー・慰霊碑めぐり・平和記念資料館見学**と続き、途中に昼食をはさみつつも、午前11時から午後3時までの4時間、素直で、謙虚な学習者として本領を発揮し、学校での事前学習を現地での体験学習につなげていました。

特に、人との出会いを大切に慰霊碑めぐりの現地ボランティアガイドさんのお話に耳を傾ける姿勢も素直で、目と耳と心を働かせ、問いや気づきをもって聴くことができました。学習者として最も大切な聴く心、聴く力がしっかりと備わっていると実感しました。



**折り鶴セレモニー**



**慰霊碑めぐり**



**平和記念資料館見学**

二つ目の**仲間づくり**については、友だちがポツンと一人になるようなこともなく、一人ひとりが役割を自覚して活動する生活班・学習班での様子は、平和そのものでした。

先生方の指示・指導の言葉は終始穏やかで、子どもたちも1日目の集団生活を素直にふり返り、2日目には自分たちで意識し、声を掛け合いながら改善に向かう姿が見られ、安心して見守ることができました。

「修学旅行のしおり」に書かれてあることを頭に入れ、短時間の確認で、確実に日程をこなしていく子どもたちは、初めての宿泊体験とは思えない賢さでした。しかも、3密を避けるための集団行動も速やかで、手指消毒や検温等の徹底事項にも素直に応じながら、修学旅行を心から楽しんでいる様子でした。

修学旅行を通して何を大切にするのか、どんな力をつけるのか、その目的を明確にして、全員が同じ方向に気持ちを揃え、過ごすことができた2日間だったと思います。

自らの足で広島を歩き、わかったこと、気づいたことは本物です。この気づきを日々の学校生活に活かし、最後まで友だちを大切に、違いを認め、助け合い、教え合える関係を保ち続けて欲しいと願っています。

そのためにも、今、自分にできることとして、友だちや下級生への「思いやり」を大切に、身近な平和を創り上げていってほしいと願っています。

一人一人の笑顔が卒業というゴールまで光り輝けるよう、最後まで最上級生としての誇りを胸に、日々の頑張りを見つけ、ほめ続けていきたいと考えています。



**お土産選び**



**ふり返りタイム**



**室長会議**



**お布団の片づけ**



**藻塩づくり体験**



**浜あそび**



**砂浜ステージ**



**絶品の鯛めし**